

第122回日商簿記3級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	当	座	受	取	手	形	売	掛	金
前	払	金	立	替	金	未	収	入	金	仮
貸	付	金	車		両	支	払	手	形	買
前	受	金	預	り	金	未	払	金	仮	受
借	入	金	車	両減価償却累計額		引	出	金	仕	入
減	価	償	却	費	発	送	費	租	税	公
固	定	資	産	売	却	損	売	上	受	取
										利
										息
										固
										定
										資
										産
										売
										却
										益

1. 店舗兼住居用の建物と土地に係る固定資産税 ¥ 200,000 と、店主の所得税 ¥ 150,000 を現金で納付した。なお、固定資産税のうち20%については店主個人住居部分に対してである。
2. 得意先足利商店に対して期間6か月、年利率4%で ¥ 300,000 を貸し付けていたが、本日、満期日のため利息とともに同店振出しの小切手で返済を受け、ただちに当座預金に預け入れた。なお、現在、当座預金は ¥ 100,000 の借越となっている。
3. 仕入先細川商店から商品 ¥ 500,000 を仕入れ、代金のうち ¥ 300,000 については京極商店振出し、当店受け取りの約束手形を裏書譲渡し、残額については細川商店を名宛人とする約束手形を振り出して支払った。なお、引取運賃 ¥ 5,000 については現金で支払った。
4. 得意先朽木商店に商品 ¥ 700,000 を売り渡し、代金のうち ¥ 200,000 はすでに受け取っていた手付金と相殺し、残額については脇坂商店振出し、朽木商店受取りの約束手形の裏書譲渡を受けた。なお、当店負担の発送運賃 ¥ 6,000 については現金で支払った。
5. 平成15年7月1日に取得した車両（取得原価 ¥ 2,000,000、残存価額 ¥ 200,000、耐用年数6年、減価償却方法は定額法・間接法で処理）を平成20年8月31日に ¥ 400,000 で売却し、売却代金については翌月の15日に受け取ることにした。なお、当社の決算日は12月31日で、減価償却については月割り計算による。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	租 税 公 課	160,000	現 金	350,000
	引 出 金	190,000		
2	当 座	306,000	貸 付 金	300,000
			受 取 利 息	6,000
3	仕 入	505,000	受 取 手 形	300,000
			支 払 手 形	200,000
			現 金	5,000
4	前 受 金	200,000	売 上	700,000
	受 取 手 形	500,000		
	発 送 費	6,000	現 金	
5	減 価 償 却 費	200,000	車 両	2,000,000
	車 両 減 価 償 却 累 計 額	1,350,000		
	未 収 入 金	400,000		
	固 定 資 産 売 却 損	50,000		
別解	減 価 償 却 費	200,000	車 両 減 価 償 却 累 計 額	200,000
	車 両 減 価 償 却 累 計 額	1,550,000	車 両	2,000,000
	未 収 入 金	400,000		
	固 定 資 産 売 却 損	50,000		

・解説

1. 資本の引き出し・租税公課に関する問題です。

まず、固定資産税 200,000 円に関しては営業用（事業用）と店主用の 2 つに分けたうえで、前者を**租税公課**で費用処理し、後者を**資本の引き出し**として処理します。

なお、本問は問題で列挙されている勘定科目の中に引出金がある（資本金がない）ので、資本の引き出しに関する仕訳は**引出金**で処理します。

・ 80%は営業用 → 160,000 円（=200,000 円×80%）は**租税公課**で費用処理

・ 20%は店主用 → 40,000 円（=200,000 円×20%）は**引出金**で処理

★解答①

（借）租税公課 160,000 / （貸）現金 200,000

（借）引出金 40,000

また、店主の所得税を会社が肩代わりして支払った場合は、**資本の引き出し**として処理します。

★解答②

（借）引出金 150,000 / （貸）現金 150,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

資本の引き出しに関する問題は、第 102 回の問 3や第 106 回の問 4、第 107 回の問 2、第 111 回の問 3、第 114 回の問 2、第 117 回の問 5、第 125 回の問 2、第 126 回の問 5、第 127 回の問 5、第 129 回の問 5、第 133 回の問 3、第 135 回の問 4、第 136 回の問 1、第 139 回の問 4、第 145 回の問 1、第 147 回の問 2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

租税公課に関する問題は第 106 回の問 4や第 107 回の問 2、第 111 回の問 3、第 125 回の問 2、第 127 回の問 5、第 129 回の問 5、第 133 回の問 3、第 135 回の問 4、第 137 回の問 2、第 139 回の問 4、第 141 回の問 5、第 146 回の問 3、第 147 回の問 2、第 150 回の問 5でも出題されているので、こちらもあわせてご確認ください。

2. 貸付金の回収&当座取引に関する問題です。

当座取引の処理に関しては、【当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制】と【当座勘定のみを使う 1 勘定制】の 2 つがありますが、この分野は簿記 3 級の頻出論点なので、どちらの処理も必ず押さえておきましょう。

本問は、問題に列挙されている勘定科目に**当座勘定がある（当座預金・当座借越勘定がない）**ので、1 勘定制で処理すると判断します。

■当座勘定のみを使う 1 勘定制（解答）

当座に関する仕訳は全て「当座勘定」を使って処理します。機械的に処理するだけなので 2 勘定制よりも簡単です。

$$\boxed{\text{受取利息} = 300,000 \text{ 円} \times 4\% \times 6 \text{ か月} / 12 \text{ か月} = 6,000 \text{ 円}}$$

★解答仕訳

(借) 当座 306,000 / (貸) 貸付金 300,000
(貸) 受取利息 6,000

■当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制（参考）

当座を増加させるような取引（商品の売上や有価証券の売却など）の場合は、まず当座借越があるか確認します。当座借越があればそれを相殺したうえで残りを当座預金勘定に計上し、ない場合は全額をそのまま当座預金勘定に計上します。

逆に、当座を減少させるような取引（商品の仕入や有価証券の購入など）の場合は、まず当座預金の残高があるか確認します。当座預金の残高があればそれをゼロになるまで減額したうえで残りを当座借越勘定に計上し、ない場合は全額をそのまま当座借越勘定に計上します。

☆参考仕訳

(借) 当座借越 100,000 / (貸) 貸付金 300,000
(借) 当座預金 206,000 (貸) 受取利息 6,000

貸付金の回収に関する問題は、第 104 回の問 5や第 114 回の問 4、第 132 回の問 1、第 142 回の問 3で出題されています。

また、当座取引に関する問題は、第 100 回の問 2や第 103 回の問 5、第 104 回の問 2、第 105 回の問 1、第 114 回の問 5、第 121 回の問 5、第 125 回の問 5、第 129 回の問 1、第 133 回の問 1、第 134 回の問 3、第 135 回の問 5、第 136 回の問 5、第 137 回の問 1でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 仕入取引に関する問題です。

この問題は【裏書手形に関する仕訳】【約束手形に関する仕訳】【引取運賃に関する仕訳】に分けて考えましょう。

【裏書手形に関する仕訳】

問題文に「代金のうち 円 300,000 については京極商店振出し、当店受け取りの約束手形を裏書譲渡」とあるので、当社が所有している受取手形を細川商店に譲渡する仕訳をきります。

★解答仕訳①

(借) 仕入 300,000 / (貸) 受取手形 300,000

【約束手形に関する仕訳】

問題文に「残額については細川商店を名宛人とする約束手形を振り出して支払った」とあるので、残額の 200,000 円 (=500,000 円-300,000 円) を支払手形勘定で処理します。

★解答仕訳②

(借) 仕入 200,000 / (貸) 支払手形 200,000

【引取運賃に関する仕訳】

引取運賃などの付随費用は、商品を仕入れるさいに不可避免的に発生する費用なので、仕訳を切るさいは**仕入勘定に含めて処理**します。

★解答仕訳③

(借) 仕入 5,000 / (貸) 現金 5,000

以上、①②③をまとめると解答仕訳になります。

4. 売上取引・前受金に関する問題です。

この問題は【前受金に関する仕訳】【裏書手形の受取に関する仕訳】【発送運賃に関する仕訳】に分けて考えましょう。

【前受金に関する仕訳】

問題文に「代金のうち 円 200,000 はすでに受け取っていた手付金と相殺し」とあるので、当該取引に関する前受金を減額する仕訳を切ります。

☆前受金受取時の仕訳 (既に切られた仕訳)

(借) 現金など 200,000 / (貸) 前受金 200,000

★解答①…前受金を相殺する仕訳

(借) 前受金 200,000 / (貸) 売上 200,000

なお、仮受金と前受金についてはきちんと区別してください。目的がはっきりしていない場合は仮受金で、目的がはっきりしている場合は前受金と考えることも出来ますし、以下のようにまとめることも出来ます。

- ・ 仮受金…何のためのお金か分からないまま（**とりあえず仮に**）受け取った場合に計上する勘定
- ・ 前受金…何のためのお金か分かっている（**取引の前に**）受け取った場合に計上する勘定

【裏書手形の受取に関する仕訳】

問題文に「残額については脇坂商店振出し、朽木商店受取りの約束手形の裏書譲渡を受けた」とありますが、他店振り出しの約束手形を裏書譲渡された場合は、受取手形勘定を使って機械的に処理するだけです。

★解答②…裏書手形の受取に関する仕訳

(借) 受取手形 500,000 / (貸) 売上 500,000

【発送運賃に関する仕訳】

問題文に「当店負担の発送運賃 円 6,000」とあるので、発送費勘定（特に指定がない場合は、許容勘定である支払運賃勘定や発送運賃勘定でも可）を使って処理します。

★解答③…発送運賃に関する仕訳

(借) 発送費 6,000 / (貸) 現金 6,000

以上、①②③をまとめると解答仕訳になります。

5. 固定資産の売却・未収入金に関する問題です。

固定資産は期首に売却する場合と、期中（または期末）に売却する場合とで処理が異なるので、まず問題がどちらに該当するのか確認しましょう。

■期首に固定資産を売却する場合

当期の減価償却費はゼロなので、取得原価から期首備品減価償却累計額を差し引いて売却時の帳簿価額を計算し、さらに売却価額との差額で売却損益を計算します。

売却時の帳簿価額 = 取得原価 - 期首備品減価償却累計額

■期中（または期末）に固定資産を売却する場合

当期の減価償却の処理に関する指示が入るので、それによって当期の減価償却費を（月割で）計算します。

そのうえで、取得原価から期首備品減価償却累計額 & 当期の減価償却費を差し引いて売却時の帳簿価額を計算し、さらに売却価額との差額で売却損益を計算します。

売却時の帳簿価額 = 取得原価 - 期首備品減価償却累計額 - 当期の減価償却費

■本問はどっち？

問題文の「平成 20 年 8 月 31 日に ¥ 400,000 で売却」「当社の決算日は 12 月 31 日」から**期中に売却**したことが分かります。また、問題文に「**減価償却については月割り計算による**」という指示があるので、まず当期の減価償却費を計算します。

なお、当期の減価償却費は、12 か月分ではなく **8 か月分**（平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 8 月 31 日）なので間違えないように気をつけてください。

$$(2,000,000 \text{ 円} - 200,000 \text{ 円}) \div 72 \text{ か月} = 25,000 \text{ 円/月}$$

$$25,000 \text{ 円/月} \times 8 \text{ か月} = 200,000 \text{ 円}$$

次に、期首車両減価償却累計額を計算しますが、平成 15 年度については 12 か月分ではなく **6 か月分**（平成 15 年 7 月 1 日～平成 15 年 12 月 31 日）なので間違えないように気をつけてください。

- ・平成 15 年度：6 か月（平成 15 年 7 月 1 日～平成 15 年 12 月 31 日）
- ・平成 16 年度：12 か月（平成 16 年 1 月 1 日～平成 16 年 12 月 31 日）
- ・平成 17 年度：12 か月（平成 17 年 1 月 1 日～平成 17 年 12 月 31 日）
- ・平成 18 年度：12 か月（平成 18 年 1 月 1 日～平成 18 年 12 月 31 日）
- ・平成 19 年度：12 か月（平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日）

$$(2,000,000 \text{ 円} - 200,000 \text{ 円}) \div 72 \text{ か月} = 25,000 \text{ 円/月}$$

$$25,000 \text{ 円/月} \times 54 \text{ か月} = 1,350,000 \text{ 円}$$

当期の減価償却費と期首車両減価償却累計額の金額を計算したら、取得原価からこれらを差し引いて売却時の帳簿価額を計算します。

$$\text{取得原価 } 2,000,000 \text{ 円} - \text{期首車両減価償却累計額 } 1,350,000 \text{ 円} - \text{当期の減価償却費 } 200,000 \text{ 円} = 450,000 \text{ 円}$$

最後に、売却時の帳簿価額と売却価額との差額で売却損益を計算します。売却価額 400,000 円は商品売買以外の取引で発生した債権なので、売掛金ではなく未収入金で処理します。

- ・売却時の帳簿価額 = 450,000 円
- ・売却価額 = 400,000 円
- ・差額 = 50,000 円（帳簿価額 > 売却価額…**売却損**）

★解答仕訳

(借) 減 価 償 却 費 200,000 / (貸) 車両 2,000,000
(借) 車両減価償却累計額 1,350,000
(借) 未 収 入 金 400,000
(借) 固定資産売却損 50,000

なお、上記の仕訳は、「当期の減価償却の処理」と「売却の処理」を 1 本の仕訳にまとめていますが、まとめずに別々に処理しても構いません。その場合、借方と貸方の車両減価償却累計額のコличествоが変わります。

★別解

(借) 減 価 償 却 費	200,000	／	(貸) 車両減価償却累計額	200,000
(借) 車両減価償却累計額	1,550,000	／	(貸) 車	両 2,000,000
(借) 未 収 入 金	400,000			
(借) 固定資産売却損	50,000			

固定資産の売却に関する問題は、第 102 回の問 2や第 105 回の問 2、第 108 回の問 1、第 115 回の問 4、第 119 回の問 5、第 120 回の問 3、第 132 回の問 2、第 134 回の問 1、第 135 回の問 3、第 136 回の問 2、第 137 回の問 3、第 138 回の問 2、第 142 回の問 1、第 146 回の問 2、第 149 回の問 5でも出題されているので、あわせてご確認ください。